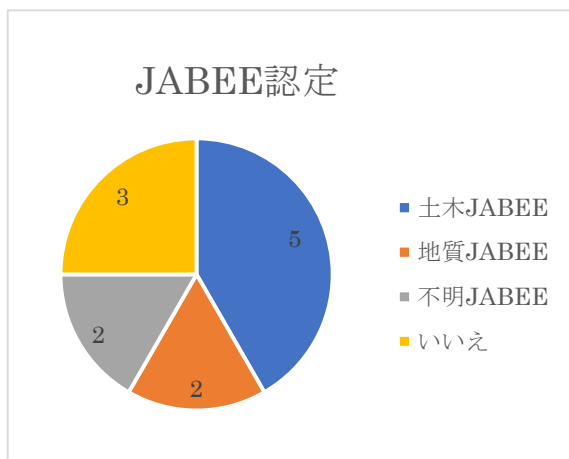


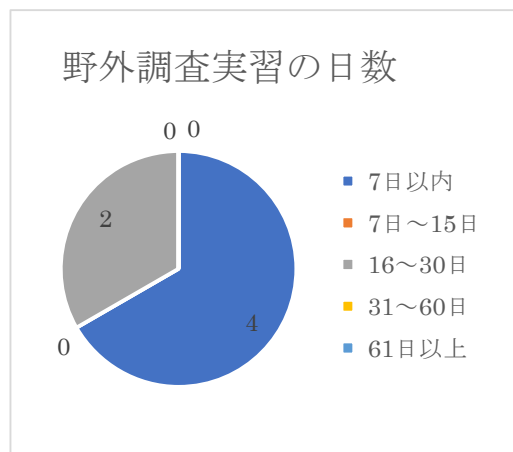
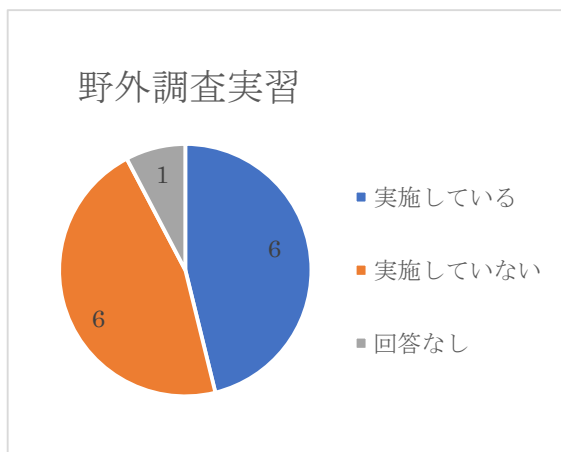
大学アンケート

回答数 13 件（北大，弘前大，長岡大，埼玉大，東大，東京海洋大，日大，岐阜大，名大，名城大，福井大，鳥取大，山口大）

- 1) ご所属の大学、学科名または講座名（できれば専攻分野がわかる通称）を記してください→省略
- 2) 貴学科は技術者教育認定(JABEE)の資格を有していますか？  
(JABEE の振り分けは学科名より長田が推定)



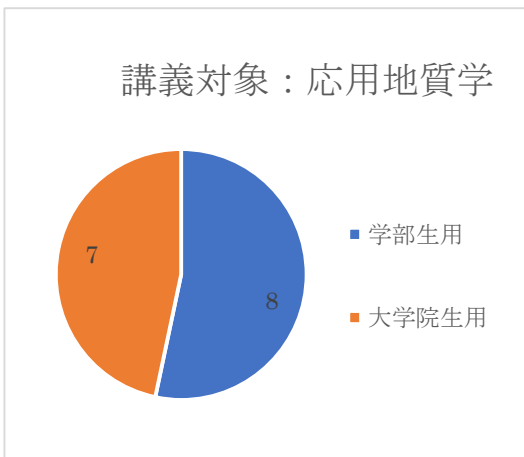
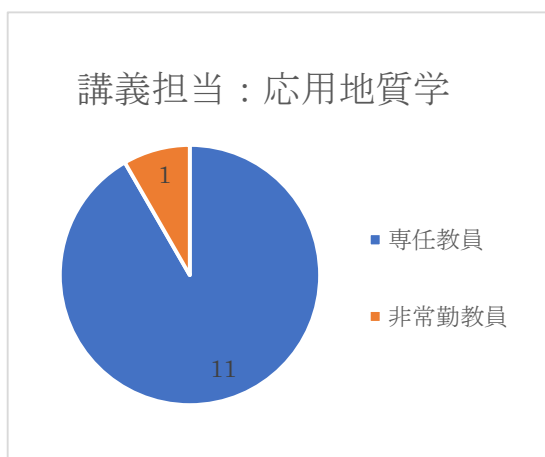
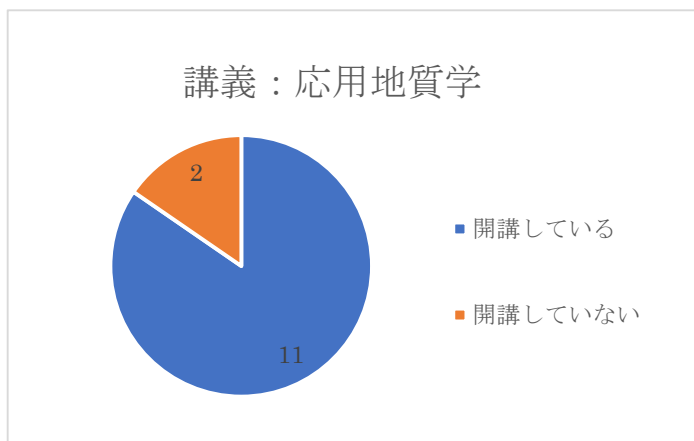
- 3) 昨年度の学科卒業生数・大学院修士課程および博士課程の修了者数を男女別に記してください→省略（統計量を出せないの）
- 4) 昨年度卒業生の進路を、最終学歴別に下記の中から選んで記してください。  
→省略（統計量を出せないの）
- 5) 貴学科または講座で学部生向けの野外調査実習を実施していますか。  
5-1) 実施していると答えた方にお聞きします。学部期間にどの程度の日数を行っていますか。



6) 貴学科または講座で学部生や大学院生向けに応用地質学に関する科目を開講していますか。

6-1) 開講していると答えた方にお聞きします。講座の対象は

6-2) 開講していると答えた方にお聞きします。担当教員は

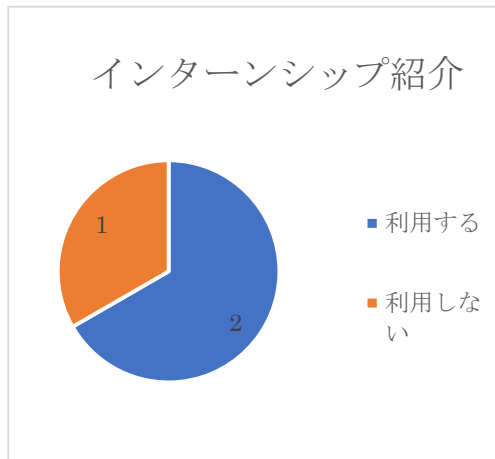
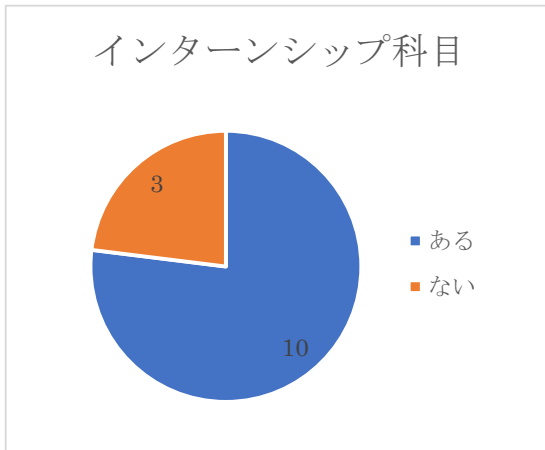


6-3) 開講していないと答えた方にお聞きします。開講していない理由は何ですか。

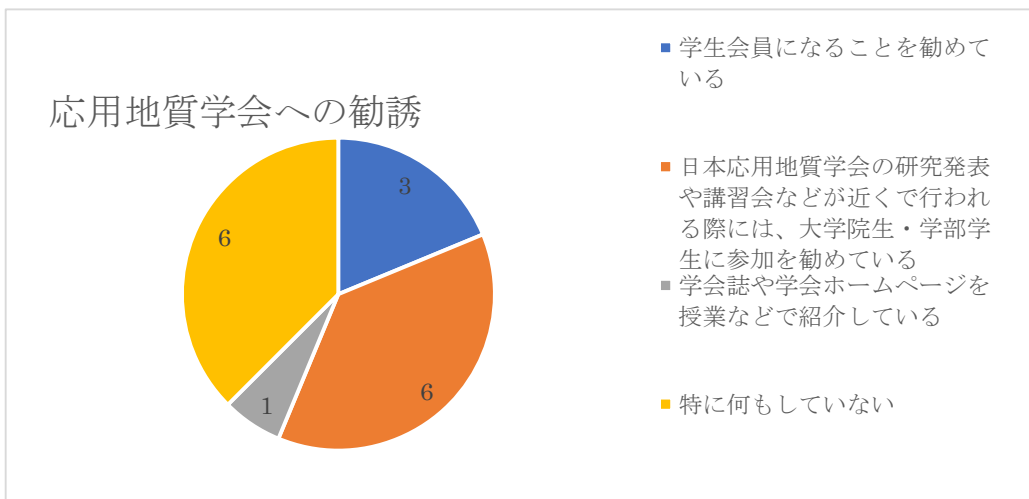
- 1) 研究科や講座では応用地質の講義はとくに設けていないが、私の授業の一環として応用地質の講義を行っている (のみ) 一コマ、大学院向けとして
- 2) 専任教員だが、専門は土木工学であり、教育内容は土木よりの内容
- 3) 開講できる授業時間が確保できない

7) 貴学科または講座ではインターンシップ科目がありますか？

7-1) ないと答えた方にお聞きします。インターン受け入れ企業を学会として紹介できる場合、利用しますか。



8) 貴学科または講座で、大学院生・学部生に日本応用地質学会を紹介していますか？



9) 日本応用地質学会への要望をご自由に記してください。

たとえば応用地質学（あるいは地質学）の魅力を高めるため、ないし魅力を広く社会に伝えるために何が必要でしょうか？

1

名古屋大学では、地球科学に関する分野が多岐にわたっており、また大学院も「環境学研究所」という名の基に講義などが展開されている状況で、実質的には応用地質あるいは応用地質学会に関わっているのは、基本、私一人の状況です。ただ学生の就職先としては、コンサルなどもときどき挙がっており、その辺のギャップをどう詰めたらいいいのかが課題の状況です。

2

防災地質学に関連する書籍の出版やシンポジウムを開催する。学生にとっては防災という名称を好みます。また、「応用地質」といっても漠然として何を行なう分野なのかイメージしにくいと思います。ちなみに、弘前大学では学部学生の科目に「応用地質学」がありましたが、H28で廃止し、「防災地質学」を新設しております。

3

4

5

応用地質学は地質学を専門としない土木の学生にも重要である。残念ながら、本学では応用地質学の講義は学部になく、大学院の講義も内容が貧弱な状況である。この原因には、応用地質学の人気がなく、受講する学生の少ないこと挙げられる。理由は回答者の推測であるが、応用地質学を1科目の受講で理解することが難しいことに拠る。そもそも、応用地質学は基礎理論がテキストに明確に示されておらず、演習を通して慣れることを強要する傾向がある。しかし、そのような時間のない学生も多い。また、数式もなく、(解釈はあるが、)解答もない。定量的な評価に親しんでいる理系人間には、モヤッとした図を示されても理解できないと思われる。この辺りの問題を払拭する教科書を作成いただければ多くの学生もより応用地質学の基礎を学び、応用地質学に関する親近感を有することも可能になると考えます。

6

7

8

9

・応用地質学会が、人々がよりよい生活をする上でどれくらい役に立っているのかをアピールしていただきたい。

・関連他学会との連携および会員サービス(所属学会以外の関連学会への参加費割引など)を充実させていただきたい。

・上手な世代交代をしていただけるとよいと思う(例えば、長老は必要に応じてアドバイスするなど)。

・応用地質学会の夢を掲げることで、若い人が希望を持てるのではないか。

10

・考古学のように断層等の見学会などを実施する

・ぶらたもりが理想であるがメディアとタイアップした企画を実施する

11

応用地質学とは、本来広範な学問分野を網羅すべきであると考えているが、地すべりをはじめとする防災的な観点が強く、現状は特定の専門分野に学会活動などが限定されてしまっている。そうすると、地質コンサル等を希望する学生にはよいが、それ以外の進路を希望する学生にはまったく興味がなくなってしまう。

12

地質学出身で土木工学に身を置くものとして、地質学は地盤工学等から必要にはされていますが、両分野の意思疎通が足りないように感じます。専門性深化が進んでいる昨今の傾向は否めませんが、本当に社会に役立つのは総合化であるように感じます。地質技術者が土木技術者とも協力して（一般社会からは同じ建設業と考えられている）、草の根的に社会に伝えていくことがまず第一歩かと存じます。

社会に強い影響を与えるには、タレント的な広報活動も必要かもしれません。地質技術者が宇宙飛行士にでもなれば、インパクトあるでしょうね。"

13

#### ◆アンケートの分析結果

- ・ 回答者は、応用地質系の講義を担当している先生が主体と思われる
- ・ 従って、応用地質学の講義の担当教員の割合が高い
- ・ 回答者の属性は、地質系と土木系が半々程度
- ・ 従って JABEE 資格も、地質系と土木系で半々程度と推定される
- ・ 応用地質系の講義は開講しているものの、一コマあるいはその一部分に限られていることが多い
- ・ 野外実習については、地質系 JABEE 資格を有している大学では長く、土木系では短いか、実施していない
- ・ JABEE 資格を有している大学では、インターンシップも科目も備えており、新たに学会から受け入れ企業を望む声は小さい
- ・ 学生への勧誘は、地質系 JABEE 資格を有している大学では学生会員になることを積極的に勧めているが、そうでない場合は、研究発表会や講習会への参加が中心である
- ・ 学会誌や学会 HP は活用されていない

#### ◆学会の課題及び学会への要望、要求

[課題 講義関係]

- ・ 「応用地質学」のイメージが漠然としている
- ・ 応用地質の内容は広範なので、少ないコマ数ですべてを教えられない
- ・ 学生には、応用地質よりも防災地質の方がわかりやすい。一方で、防災に偏っていることに懸念もある。コンサル希望にはよいが、他は無関心となる。
- ・ 応用地質を学びたい学生は少数、でもコンサル志望の人もある
- ・ 応用地質は、数式もなければ、解答もなく、解釈が中心であり、学生さんの思考になじまない。
- ・ 応用地質に親近感を与えるには？

[要望, 要求]

- ・応用地質学に関する教科書の作成
- ・応用地質学会の社会的貢献度のアピール・広報, マスメディアとタイアップ
- ・応用地質学会の夢を掲げる
- ・関連他学会との連携
- ・会員サービス (参加費割引など)
- ・見学会の実施
- ・地質技術者と土木技術者の協働